

播磨町全教職員研修会

これからの生徒指導の方向性と課題

▼問合せ 学校教育グループ ☎079 (435) 0545

8月25日に、平成29年度全教職員研修会が開催されました。兵庫教育大学、関西外国語大学教授を歴任されている新井肇先生を講師に迎え、「これからの生徒指導の方向性と課題」と題してご講演いただきました。新井先生は、いじめ・不登校・暴力行為・児童虐待・ネット犯罪・薬物乱用など問題行動の多様化に対応した教育実践・研究をされています。約2時間の講演があつたという間に感じられ、とても有意義な時間となりました。その講演内容の一部をご紹介します。



I 生徒指導上の今日的課題

危機を感じるの、いつものやり方では解決できず、危険に直面した精神的混乱状態の時です。当たり前のことができなくなったり、想定外のことがあったりします。危機は、分岐点であると考えたらどうでしょう。人は一つひとつの問題を乗り越えて成長していきます。思春期の子どもたちは、この危機に陥ることが多い時期だといえます。この危機に陥つた子どもを支援、援助していくことが生徒指導です。

1. 児童・生徒の心の危機の 状態

戦後の非行は貧困の中での行動が多く、また日本が豊かになった1960年代では遊び型非行でした。しかし、現在では表面上は素直に見える子どもが突然犯罪行為におよぶようなこれまでは見られなかった新しい型の問題行動が増加傾向にあります。怒りや不快、不安などのネガティブな感情がその人の心の容量を超えてしまい、適切に対処できなくなった結果、

2. 児童・生徒の心の危機の 背景

子どもたちの心の危機として次の5つがあげられます。
・自己愛が強く、傷つけられたい、非難されたいすると一人で思い悩んだり、極端に反発してしまう
・快・不快の生理的感情が行動を支配し、抑制のきかない欲動にかられてしまう
・他者の気持ちに分からず、人とうまくつながることができないため人間関係をつくる力に弱さがある
・つながってなくちゃなんない症候群、つまり一人でいられる力のなさがみられる
・自分で考えることが苦手で、自分と向き合うことや悩むことを避け、主体性が乏しく幼児化している

3. 心の危機の発達の理解

バーチャルな世界の影響を強く受けている児童生徒が多く、子どもの死生観の中で、

人は死なないと考えている子どももいます。核家族も増え、昔と比較すると、価値の共有化ができるまわりの人の数も限られている今の世の中が大きく影響しているのではないのでしょうか。

II これからの生徒指導

問題行動の多様化・重層化のなかで、生徒指導の進め方は次の7つに取り組んでいく必要があります。

- ・すべての児童生徒が問題行動の要因を内包している可能性があるという認識をもつておく
- ・発達段階に応じた体系的な生徒指導を展開していくために、幼保小中高の学校種間の情報連携や行動連携を大切にす
- ・発達上の課題を抱えた児童生徒に対する周囲の理解と一人ひとりの特性に応じた指導を重視する
- ・学校は授業をするところなので、学習指導と生徒指導の一体をはかり、学びに生かせる生徒指導を進める
- ・「治す」より「育てる」生徒指導として、開発的・予防

III 子どもの育ちで大切なこと

- ・的生徒指導を構築していく
- ・すべての教師が生徒指導を担い、校内連携をした組織的対応をし、チームとして取り組む。また、学校を地域に開いていくことも大切にする
- ・若手教員に対する生徒指導の理論やスキルの伝達を行う

子どもは、生まれた時からさまざまな課題を解決しつつ成長を遂げていきます。

- ▽乳児期 母親を中心とし、愛着形成がはかられる
- ▽乳幼児期 両親を中心に、体と心の成長がみられる
- ▽幼児期 第1反抗期をむかえるが、家族と過ごすことで自発性が養われ、目標を見出していく
- ▽学童期 学校や地域の活動から、ねばり強く取り組む勤勉性を培う
- ▽学童期・青年期 家族以外の集団、仲間と一緒に過ごすことで、自分はこんなことをやってみたい、その挑戦の中で自信をつけてい

突発的に攻撃性を爆発させてしまつ行動、つまり「キレる」子どもも多くいます。また、自傷行為に出る子どもも少なくありません。

く。そのための重要な他者と出会うことが大切

「生徒指導は、児童生徒理解に始まり、児童生徒理解におわる」とまとめられました。子どもたちを取り巻く環境が昔とはずいぶん変わってきています。しかし、いつの時代も子どもたち一人ひとりに寄り添いながら教育を進めていくことが大切です。学校と地域、そして家庭が連携することで播磨町の子どもたちをより一層すてきに輝かせていきたいものです。



家庭教育コラム 子どもの未来のために

「家庭学習のめやす」

播磨町家庭教育推進委員会

〔学ぶ力〕「学ぶ姿勢」を身につけるために

〔家庭学習は、とても重要〕

〔中学3年生②〕
☆目標を持って学習する習慣を身につけよう

●家庭学習ですることとは…

【国語】

○わからない語句があればすぐに辞書などで調べましよう。

○普段から文字を正しく書いていねいに書く意識を持ちましよう。

【社会】

○時事問題に関心を持ち、新聞報道やニュースに注目するようになましよう。

●家庭では…

○学校からの情報を逃さないようアンテナを高くし、子どもと進路について話し合う機会を多くもちましよう。

●各学年の家庭学習のめやす

小学1・2年生	30分
小学3・4年生	45分
小学5・6年生	60分
中学1・2年生	120分
中学3年生	150分



ゆとりある学校生活のためご協力をお願いします

▶問合せ 学校教育グループ ☎079 (435) 0545

児童・生徒のゆとりある生活の確保、心身のリフレッシュやスポーツ傷害などの防止、教職員が児童・生徒と向き合う時間の確保のため、県教育委員会では勤務時間適正化推進プランを策定し、「ノー部活デー」や「教職員定時退勤日」を実施しています。保護者や地域の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

●ノー部活デー

平日週1日、休日月2回以上

●教職員定時退勤日

週1回以上

※実施日は各学校で設定します。

